来賓あいさつ

衛藤征士郎・海事振興連盟会長（海洋立国懇話会顧問）

海洋国家日本のチャートは３枚　重ね合わせて確かな方向を見い出す

平成３０年度海洋立国懇話会のご盛会を心からお慶び申し上げます。会長はじめ皆様の平素のご尽力に対して、謝意を表します。また、会員の皆さんが海事立国のため、また海洋立国産業のために、つかさつかさで大変なご尽力を賜っていますこと、心から敬意と感謝の意を表します。

私ども海事振興連盟も髙木義明先生とずっと一緒に取り組んできまして、現在３７８名の国会議員が参加をしています。しかし、もう一つ大事なもの、この場に立つ海洋立国懇話会であります。

わが国、海洋国家日本、海洋立国日本のチャートは３枚あります。平成１９年にスタートした内閣総理大臣を本部長とする総合海洋政策本部、副本部長は内閣官房長官と海洋政策担当大臣で、他のすべての閣僚が本部員となっています。海洋基本法は同年７月２０日海の日に施行、そして５年ごとに基本計画が立案され今回が３回目で、総合海洋政策本部が作る大きな航海地図であります。そして海事振興連盟があり、もう一つ大事な３枚目が海洋立国懇話会で、この大きなチャート３枚を重ね合わせて一つの日本が、海運国として進むべき方向、確かな方向を見い出すことではないかと思います。

その意味で海洋立国懇話会が果たす役割は、極めて大きいものがあります。もちろん私どもは海洋立国懇話会と並走する立場で、これからもお互い勉強しながら、汗を流していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

もう一つは「海の日」のことです。かつて国の祝日としてスタートしましたが、途中で国民の休日、祭日に変質してしまったのであります。「海の日」は海洋立国日本の「建国記念日」である、そのことをしっかり踏まえた７月２０日「海の日」だと思っています。現在は第３月曜日となって毎年毎年動くわけであります。

最近、横浜市長、東京都知事とも話をしました。「衛藤君、海の日が動くもんだから、かつては全国の自治体は『海の日』を年間の重要な事業と位置付けて、予算化をしてきたが、残念なことになっておる」というのです。

もう一つ大事なことは、今、与党野党を挙げて、開かれたインド太平洋、環太平洋国家日

本の位置付けのなかで、私どもは将来、環太平洋サミットを毎年日本が主催して、日本でやらねばならない思いが強いのですが、今後皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「海の日」を７月２０日に戻すということで、自民党のなかでもいろいろ議論しています。先般、議員立法の場合、党の内閣第一部会で議論することになっていて、第１回部会を行いました。出席議員のうち２８名が固定化すべしとなり、４名が明確に反対で観光業界とめされる方で、あとの２名が中間意見で、２８対６でありました。

反対側からここで押し切るのではなく、ぜひもう一度業界の意見を聞いてくれということであり、５月１７日午前７時３０分からもう一度議論します。これを踏まえて議員立法の手続きに入っていきたいなと思っています。成人の日、敬老の日も移動しましたが、元に戻してくれという意見はまったくなく、「海の日」だけとなっています。

国民の祝日は国の一産業のためではなく全国にわたるため、その観点をしっかり踏まえてこれからも議論して７月２０日に「海の日」が固定化するようにしたい。そして２０２０年に東京オリンピック・パラリンピックがあります。外国のＶＩＰなどが一気においでになりますので、開会式、閉会式をうまく乗り切るため議員立法で、その前後の「海の日」、「山の日」、「体育の日」を調整させて、その年に限ってやる。ただし、「海の日」だけは２０２１年から７月２０日に戻すことを、皆様にご報告申し上げます。

なかなか譲らないので、最後、両論を残そうということですが、そうはいかないわけでして、頑張っていきたいと思います。今、予算委員会をやっておりまして、本日はありがとうございました。